

令和3年度事業計画

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として依頼公演が中止となるケースが多く、昨年度に続き厳しいスタートとなっております。平成23年の東日本大震災直後においても、音楽を被災者のもとに届けながら絆をつなぐ活動を継続してきた仙台フィルでは、この未曾有の危機においても音楽を通じた人々の絆を大切に、少しでも地域の皆さんに希望と勇気をもたらすような活動を展開し、いっそう地域の皆さまに愛されるオーケストラを目指して参りたいと思っております。

1. 仙台フィルハーモニー管弦楽団を編成し、及び維持すること

(1) 指揮者・楽団員の体制等

近年日本楽壇の重鎮として注目を集めている、常任指揮者・飯守泰次郎を中心に、幅広いレパートリーに定評のあるレジデント・コンダクター・高関健、現代作品への積極的な取り組みでますます評価が高まっている指揮者・角田鋼亮による指揮者体制が4年目を迎えます。

また楽団員については、令和2年度に実施したオーディションにより、令和3年度にチェロ1名を採用する予定です。

2. 交響管弦楽等を行うこと

(1) 定期演奏会

仙台フィルは、平成30年から3年をかけて令和2年のベートーヴェン生誕250周年をゴールに常任指揮者・飯守泰次郎の監修のもとでベートーヴェンの全交響曲、全ピアノ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲に取り組んでまいりました。令和3年からはその流れをさらに深化させるべく、常任指揮者飯守泰次郎のもと、2年間をかけてブラームスの全交響曲、2つのピアノ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲及びチャイコフスキーの後期交響曲シリーズをスタートさせます。

また、令和3年は平成13年の第1回仙台国際音楽コンクールのスタートから丁度20年目の節目にあたります。仙台フィルのオーケストラとしての美点の一つである協奏曲演奏におけるオーケストラの共振力の強さと柔軟な反応力を再認識いただく絶好の機会ととらえ、「協奏曲」を今シーズンの年間テーマとして掲げます。多彩な協奏曲の数々を近年話題のソリストとともにお送りし、共に創造する「協奏曲」の世界を皆様に体験していただきます。

常任指揮者飯守泰次郎は、第346回定期演奏会(6月)に登壇し、仙台銀行ホールイズミティ21の広い空間を生かし、チャイコフスキーの交響曲第5番でロマンティックの極致をダイナミックに描きます。また、第349回定期演奏会では釜石出身の新進気鋭のピアニスト小井土文哉をソリストにブラームス：

ピアノ協奏曲第2番と交響曲第2番を、第352回定期演奏会では、安定した実力と人気を誇る郷古廉をソリストにブラームス：ヴァイオリン協奏曲と交響曲第3番で深遠なブラームスの世界を描きます。

レジデント・コンダクター高関健は、第353回定期演奏会(3月)に登壇し、近年再評価が高まり注目を集めている名作、矢代秋雄：ピアノ協奏曲を名手河村尚子とともに紹介するほか、パスカル・ヴェロとの圧倒的な名演で記憶されている、ベルリオーズ「幻想交響曲」を5年ぶりに取り上げ、仙台フィルのさらなる充実ぶりを内外に問います。

指揮者角田鋼亮は、第351回定期演奏会(1月)に登壇し、全米で最も注目されている作曲家ジェニファー・ヒグドンが昨年見事に3度目のグラミー賞を獲得したハープ協奏曲(独奏：吉野直子)の日本初演を行います。加えてラフマニノフが最晩年の管弦楽作品「交響的舞曲」で仙台フィルの抜群の技術力を如何なく発揮します。

客演指揮者としては、令和元年9月の第330回定期演奏会に初登場し圧倒的な成功をおさめ、昨年NHK交響楽団への初登場で多くの音楽ファンを唸らせた鈴木雅明、平成31年1月の第324回定期演奏会において著しい成長ぶりを如何なく発揮した川瀬賢太郎が2年ぶりに登場するほか、いま最も話題の指揮者サッシャ・ゲッツェル、カーチュン・ウォンが定期演奏会に初登場します。

ソリストには若干19歳で権威あるピエール・ランパル国際フルート・コンクールで優勝し、以来国内外でトップ・フルーティストとして活躍している上野星矢、数多くのCDと華麗な演奏で人気の外山啓介が仙台フィルに初共演を果たします。平成30年第87回日本音楽コンクール ピアノ部門の覇者小井土文哉、令和元年第7回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門最高位入賞者シャノン・リーが初登場するほか、アバド、クレメルらとの共演で知られるハープ奏者吉野直子、平成14年第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門の覇者上原彩子が登場します。

(2) 特別演奏会

東北の2つのプロオーケストラが手を携えて東北6県を元気にしようと企画された「東北UNITED 仙台フィルハーモニー管弦楽団×山形交響楽団 合同演奏会」は、東日本大震災から10年を数える今年、石巻に新しく開館する石巻市複合文化施設で開催します。桂冠指揮者パスカル・ヴェロが3年ぶりに仙台フィルとの共演を果たしドビュッシー、ラヴェルを披露するほか、石巻市観光大使でもある林家たい平との共演で石巻地域の文化史に新たな1歩を刻みます。

未就学児を含む多くのお子様を対象として企画している「オーケストラと遊んじゃおう」は、少しでも多くのお子様連れに楽しんでいただこうと、新型コロナウイルス感染症拡大予防を徹底した上で、今年は体験コーナーを取り止めて音楽会のみで開催とします。例年のオーケストラと歌おうに代えて、体を使った

手遊びなどを中心に楽しいコンサートをお届けする予定です。

「マイタウンコンサート in 岩沼」は、若手実力派ナンバーワンのサクソフォーン奏者上野耕平が登場し、上野耕平のためにアレンジされた「カルメン・ファンタジー」を披露するほか、昨年の交響曲第5番「運命」に続きベートーヴェンの人間と自然への賛歌田園交響曲をお届けします。

年末恒例の仙台における「第九」特別演奏会は、今年はレジデント・コンダクター高関健が担当し、高関が近年最も信頼するソリストたち（中江早希、相田麻純、宮里直樹、大沼徹）を迎えて、極上のベートーヴェン第九交響曲をお送りする予定です。

名曲コレクション・ニューイヤーコンサート2022は、フランスへの留学を糧に近年一層充実した活動を展開している田中祐子を久しぶりに指揮台に迎え、新年に相応しく華やかなポルカ・ワルツとチャイコフスキー交響曲第4番の組み合わせで福島、いわきで公演を実施します。

（3）依頼公演

4月には、多くの若者に支持されているアニメーション「アイドリッシュセブン オーケストラ」全国ツアーの仙台公演を担当します。普段なかなかオーケストラ音楽に接することのない若年齢層にアプローチする絶好の機会となっています。

7月にはアイリスオーヤマクラシックスペシャル2021がサントリーホールで予定されています。今回は桂冠指揮者パスカル・ヴェロのもと、サン＝サーンスの交響曲第3番を中心にベルリオーズなどオール・フランスプログラムで華麗なるサウンドをサントリーホールに響かせます。

9月には仙台オペラ協会の定期公演モーツァルト「魔笛」に出演する予定です。同じく9月には、石川県立音楽堂開館20周年／岩城宏之メモリアルスペシャルコンサートとして、オーケストラ・アンサンブル金沢との合同演奏会、八戸市公会堂リニューアルオープン記念公演が予定されています。

10月には日立システムズ提供の東北放送ラジオ番組のための公開番組収録コンサートを、11月には日生劇場のオペラ公演プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」の盛岡公演が予定されています。

12月には七十七銀行スターライトコンサートが新型コロナウイルス感染症対策を整え再開を予定しています。

1月には年始恒例の藤崎ニューイヤーコンサートで仙台の初春を華やかに飾る予定です。

(4) 室内楽

音楽の力による復興センター東北との連携による被災地域各地での室内楽公演を継続するとともに、地域のニーズに合わせて各種室内楽活動を引き続き行っていきます。

(5) その他

被災地のオーケストラとして、平成26年4月から続けている「復興パートナーシート」を令和3年度も継続していくとともに、「音楽の力による復興センター・東北」と連携し音楽による復興支援活動に引き続き務めてまいります。

3. 青少年等の音楽鑑賞及び演奏等に関し指導を行い、その普及を図ること

(1) 青少年のためのオーケストラ鑑賞会

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの児童が一同に会す「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」を行わず、仙台市内の小学校5年生と、中学校1年生を対象に小編成の室内楽グループによる学校訪問ミニコンサートを開催する予定です。

(2) 文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）

令和3年度も文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）」が採択となり、東北・北関東の小学校や中学校の訪問を予定しています。令和3年度は実力派若手サクソフォン奏者齋藤健太とともに各地の子供たちにオーケストラの素晴らしさを届けます。

4. その他目的達成のために必要な事業

(1) 演奏に必要な調査、研究

日本オーケストラ連盟加盟団体との各種情報交換に加え、文化庁、日本芸術文化振興基金へのヒアリングなどにより、当団の成長・発展と健全な運営に役立てまいります。

(2) 仙台フィルと第九をうたう合唱団

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で合唱団を結成することが叶わず、公演も断念せざるを得ませんでした。令和3年度は感染症予防対策をとりながら実現に向けて取り組んでまいります。

(3) 仙台ジュニアオーケストラ

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策をとりつつ、メンバーが音楽を演奏することによって心身ともに健康であることを目標に、仙台フィルの団員が講師となり、各楽器のパート練習、及び弦楽器、管楽器、打楽器

に分かれての分奏を指導にあたります。令和3年からは高関健がスーパーヴァイザーに就任し、より一層充実した活動を展開する予定です。

(4) その他

多くのリスナーからご好評をいただいているエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和3年度も番組内で聴取者に仙台フィルの演奏をじっくり聴いていただく形で継続されます。加えて TBC 東北放送においても「エンジョイ！クラシック」の継続が決定いたしました。これらの放送媒体や仙台フィルのホームページのツイッター、フェイスブックなど SNS による情報拡散を積極的に行い、仙台フィルの存在とクラシック音楽の素晴らしさを多くの市民に伝えてまいります。